

令和元年度 第1回新発田市総合教育会議（会議録）

- 1 開催日時 令和元年10月1日（火）
開会：午後1時30分 閉会：午後3時00分
- 2 開催場所 豊浦庁舎2階 大会議室
- 3 協議事項
 - (1) 教育大綱（素案）について
 - (2) しばたの心継承プロジェクトについて
- 4 出席者

市長	二階堂 馨
教育長	工藤 ひとし
教育委員（教育長職務代理者）	関川 直
教育委員	桑原 ヒサ子
教育委員	笠原 恭子
教育委員	小池 庸子
- 5 会議に出席した事務局職員

○市長部局	
みらい創造課長	山口 恵子
みらい創造課長補佐	渡邊 和人
みらい創造課企画政策係長	山田 亮一
○教育委員会事務局	
教育次長	佐藤 弘子
教育総務課長	山口 誠
教育総務課長補佐（参事）	橋本 隆
教育総務課長補佐	中山 友美
教育総務課教育総務係長	杉林 直樹
学校教育課長	萩野 喜弘
学校教育課教育センター長	小坂井 博
学校教育課長補佐	小林 克佳
- 6 協議・報告事項の経過
別紙のとおり

1 開会

○山口みらい創造課長

それでは、ただいまより令和元年度第1回新発田市総合教育会議を開会いたします。
はじめに、二階堂新発田市長よりごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

○二階堂市長

大変お忙しいところ、第1回新発田市総合教育会議ということでお集まりいただきありがとうございます。工藤教育長は初の参加ということになります。よろしく願いいたします。

今日はとても良い天気であり、早朝から駅前赤い羽根の共同募金活動を行ってきたのですが、大きな声でお願いをしておりますと汗ばむような陽気でありました。

それにいたしましても、先月26日に悲しい事案が発生いたしました。小学校2年生が交通事故に遭われたということで非常に残念であります。どの命も大切であります。生きた時間が短ければ短いほど切なさは募ります。心からご冥福をお祈りいたします。同時に教育長から残された子ども達のケアは万全を期すと報告を受け、別の一面では安心したところもあります。

話は変わりますが、先日のラグビーは驚きました。リーチマイケル選手の「勝ちたいと思うメンタリティと勝てるという自信が奇跡を起こす」という言葉がありましたけれども、まさにそのとおりなのだと思えました。一見すると肉体と肉体とのぶつかり合いですが、スポーツマンは頭が良くないとできないそうであります。新発田市の子ども達にはしっかりと教育をしていただきたいと思っています。

悲しい事案はありましたけれども、一方でうれしいニュースもありまして、第一中学校の和田さんが「わたしの主張」の県大会で優勝されたということでもあります。まだまだ新発田の子どもは伸びしろがあるのだなと思っているところであります。

本日の会議のテーマは2つであります。1つ目の「教育大綱」については、この大綱の上に「まちづくり総合計画」があるわけですが、この見直し作業が少し遅くなっているようでございます。山口みらい創造課長には急ぐように指示しておりますけれども、本日はその範囲内の中で皆様からご意見をいただきたいということでもあります。2つ目の「しばたの心継承プロジェクト」については、内容についてご説明させていただきますので、それぞれのお立場からいろいろなアドバイスをいただきたいと思っております。いずれのテーマも大切でありますので、本日はしっかりと議論をさせていただきます、加えて皆様からの御協力をお願い申し上げます。

3 協議事項

○事務局（山口みらい創造課長）

ありがとうございました。それではこれより本日の協議事項に入らせていただきます。

本日のテーマにつきましては、「教育大綱（素案）について」と「しばたの心継承プロジェクトについて」の二本立てとなっております。

「新発田市総合教育会議設置要綱 第2条」の規定によりまして、当会議の議長は市長が務めることとなっておりますので、進行については、二階堂市長をお願いいたします。

○二階堂市長

それでは、協議事項に入ります。

まず、はじめに（１）「教育大綱（素案）について」、事務局から説明をお願いします。

○山口教育総務課長

教育総務課の山口と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、「教育大綱」についてご説明いたします。お手元にお配りした資料は、平成28年度を始期とする現行の「教育大綱」でございますのでご参照ください。

はじめに、「教育大綱」とは教育の目標や施策の基本的な方針であり、総合教育会議において市長と教育委員会が協議・調整し、市長が策定するものでございます。現行の「教育大綱」は、改正地方教育行政法が施行された平成27年度に当市の最上位計画であり、まちづくり全体の方針を定めた計画でもあります「新発田市まちづくり総合計画」の中から教育に関する部分を抜粋して策定したものであります。今年度、この「まちづくり総合計画」が改訂の年となっておりますことから、「教育大綱」につきましても併せて見直しを行いたいというものであります。

しかしながら、現在、全庁で「まちづくり総合計画」の改訂作業を進めている途中であり、教育委員会におきましても現状分析、課題の確認、計画の検討などを行っているところであります。このため、本日は「教育大綱」の見直しの手法と全体的な構成についてのみご提案させていただきたいと考えております。そして、今後、「まちづくり総合計画」の改訂内容が固まりましたら、次の会議で「教育大綱（案）」としてお示ししたいと考えております。なお、「教育大綱」の基となります「まちづくり総合計画」の教育に関する内容につきましては、教育委員会の会議の中で教育委員の皆様にお示しし、十分ご議論いただく予定としております。

それでは、「教育大綱」の見直しの手法についてご説明いたします。今程、お話ししましたとおり、現行の「教育大綱」は、市の最上位計画であります「まちづくり総合計画」の教育に関する部分を抜粋して作成しております。これは、「まちづくり総合計画」は市のまちづくり全体の構想、計画を定めたものでありますので、この計画の中で定める教育に関する内容と、「教育大綱」が定める教育の目標や基本方針は、整合性を図る必要があるためです。従いまして、今回の「教育大綱」の見直しにつきましても、これまでと同様に「まちづくり総合計画」の教育に関する内容から抜粋して策定したいと考えております。

次に、教育大綱の全体構成についてご説明いたします。表紙をめくっていただき、1ページ目、ローマ数字のⅠとして「教育大綱について」とございます。その中の1として、「趣旨」を記載しております。次に2として「期間」を記載しています。「教育大綱」の期間は「まちづくり総合計画」の改訂後の計画期間と同じにしたいと考えております。次に、3として「教育大綱の考え方」を記載しております。「教育大綱」は、上位計画である「まちづくり総合計画」の基本目標や施策の内容を踏まえた内容としていることを記載したいと考えております。

続きまして、2ページ目をご覧ください。ローマ数字のⅡとして「新発田市がめざす教育」についてとしております。その中の1として「基本目標」、2として「基本方針」というタイトルで整理しています。1の「基本目標」は、「まちづくり総合計画」の『基本構想』に記載する、新発田市のまちづくりの5つの基本目標のうち、「教育・文化」の分野に関する記述を箇条書きにまとめたいと考えております。2の「基本方針」は、「まちづくり総合計画」の『基本計画』に記載する「教育・文化」の中の5つの施策、「学校教育」「学校環境」「芸術文化・文化財」「青少年育成」「生涯学習」に記載している「施策の目的」の部分に関する記述をまとめたいと考えております。

説明は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○二階堂市長

ただいま、山口教育総務課長から概要説明がありました。現在、上位計画である「まちづくり総合計画」の改訂作業中ですので、「教育大綱」の方向性のみをお示しする形となっておりますが、新発田市が目指す教育という観点から、皆様からご意見をお聞かせいただければと思います。

はじめに、工藤教育長お願いします。

○工藤教育長

まちづくり総合計画は、今回策定する教育大綱の上位計画にあたります。そして、新発田市の教育行政の内容を網羅するものでもあります。今回も「まちづくり総合計画」に記載する教育の分野の内容を抜粋し、教育大綱として定めるというこれまでの方針に異議はありません。

また、教育大綱の内容についてですが、「まちづくり総合計画」の改訂にあたり、教育に関する部分の記述については、現在、教育委員会の各課がそれぞれ課題を分析し、細部について検討を積み重ねているところでありますので、教育委員会の目指す教育行政の方向性と整合がとれた形となると考えます。今後、まちづくり総合計画の改訂スケジュールに合わせ、教育委員会の会議内で検討するとともに、総合教育会議の場で協議していただくようお願いいたします。

○二階堂市長

ありがとうございます。先程の山口教育総務課長の説明、今の工藤教育長からのお話を踏まえて、教育委員の皆様から何かご意見があればお願いいたします。

関川教育長職務代理者、どうぞ。

○関川教育長職務代理者

ただいま、山口教育総務課長並びに工藤教育長からの説明の趣旨はよく理解いたしました。手法などについてはそのとおりに進めていただければよろしいかと思います。できるだけ作業を急がれて、より良い計画となるようにしていただきたいと思います。

○二階堂市長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

特段ないようでありますので、説明のあった方向性で進めさせていただきます。「まちづくり総合計画」が一番のベースになりますので、急いで作業を進めるようにします。

他にご意見、ご質問等がないようですので、今後、2月に予定しております第2回目の総合教育会議において、再度、案としてしっかりしたものを提案させていただきたいと考えております。

○二階堂市長

それでは、次に（2）しばたの心継承プロジェクトについての協議に入ります。これは、私の任期3期目にあたり、「教育の充実」の取組として、ふるさとに自信と誇りが持てる子ども達の育成を目指したものであります。工藤教育長に、どのような方法で取組むことができるのか検討をお願いしておりましたが、その結果がまとまりましたので、教育委員の皆様にご説明し、ご意見をいただきたいと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

○小坂井学校教育課教育センター長

学校教育課の小坂井博でございます。私から「しばたの心継承プロジェクト」についてご説明させていただきます。

はじめに本日の説明項目についてです。まずは「しばたの心とは」何か、次に「地域の特色を活かした学校の取組の紹介」、「地域に関する児童生徒の意識の実態」、「基本方針と取組の視点」、具体的な取組として「プロジェクト1」と「プロジェクト2」についてご説明いたします。

まずは「しばたの心」とは何かについてであります。「しばたの心」とは人であり、人に敬意を払い、人を大事にする心、言わば「ひとを第一に考え、大事にする心」です。これは、新発田市が持つ自然や歴史、文化という新発田の風土の中で連綿と引き継がれてきた心です。しかしこの心を直接子ども達に伝えるというのはなかなか難しいことであります。そこで、これらを育んできた新発田の歴史、自然、文化、産業の良さに触れることで、そこに携わる「人」との触れ合いを通して「しばたの心」を伝えていきたいと考えました。

各校ではこうした継承すべき「しばたの心」を育んできた新発田の自然や文化、歴史等について、各地域の特色を活かした学習が既に行われています。菅谷小学校では、地域の方に米作りを教してもらいながら食糧生産について学んでいます。佐々木中学校では、地域の会社や保育園などの職場体験を通して現実の会社や事業所が抱える課題をいかに解決するかというミッションを与えられ、その課題解決に向けた具体的な提案を行っています。画像は与えられた課題について考えた解決方法を発表している場面です。御免町小学校では、学区を流れる新発田川を守る活動をしている方達と一緒に環境について学んでおります。本丸中学校と外ヶ輪小学校では、新発田市のシンボルであり、学区のシンボルでもある新発田城の清掃活動を通して、郷土に貢献しようとする心を育てています。これは文化行政課と連携し行っております。本田小学校では、地元の特産品である梅について梅組合の方から梅と地域のつながりについて学んでおります。豊浦中学校では、月岡温泉のどんどまつりに参画し、自分達が地元のまつりを盛り上げるためにできることについて取り組んでいます。藤塚小学校では、地域に伝わる大漁太鼓を上級生から受け継いでいます。地元の海開き等で披露するなど地域とのつながりを深めています。猿橋中学校では、地域貢献活動として花壇づくりや除雪など様々なボランティア活動を行っており、地域の方から大変喜ばれております。

このように、各学校で地域に関する学習を行ってきていますが、これに対する児童生徒の意識はどのようになっているのかを見てみます。これは、昨年度行われた平成30年度全国学力学習状況調査の質問紙の結果であります。「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人とかかわったりする機会があったと思いますか」という質問ですが、先程ご覧いただきましたとおり各学校で地域についての学習を行っていることから、私共は当然高い数値が出ると思っておりましたが、結果はこのようになっております。各校で実施はしているのですが、県の平均と比べて低い結果となっております。同じ質問を中学校でもしております。結果は小学校と同じで、全国平均よりは高くなってはおりますが、県平均に比べると低い結果となっております。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問については、小学校は県平均を上回っていますが、中学校に進学すると半分になってしまいます。中学生はいろいろな面で参加する時間がないのかもしれませんが、全国平均を下回っているというのは低すぎるかなと感じております。次に「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という質問に対しては、小学校、中学校共に県平均と同等という結果となっております。これを見ると、やはり子ども達の心の中には、地域とのつながりを持ちながら何らかの形で活動を行っているという意識があることが見て取れます。よって、各校で取組んでいることは全く意味がないということではなく、子ども達の心に残っているのだということが分かります。既に各学校で地域の特色を活かした学びの場が工夫されているので、この成果をより高めていくためには、地域に対する、より実感を伴った学びへと更に工夫していかなければならないと考えました。取り組んでいるにもかかわらず、その成果が見えにく

くなっているのので、これをより確かな成果に結びつけるために、実感、体験的な活動を工夫して、地域との関わりの機会や内容を充実、発展させることが必要となります。新発田の歴史、自然、文化、産業の良さとそれを守り発展させている人々との触れ合いが新発田への愛着に繋がるので、ここを大切にしながら授業を続け、良さの発見だけでなく人との出会いを含めた学びにしていくことが大切なのではないかと考えました。

それでは、これらを踏まえたうえで、取組の基本方針とその視点についてご説明いたします。まずは目指すキャッチフレーズとして「ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育」を掲げました。そして目指すまちの姿として新発田を愛し、新発田に住み続けたい、将来ふるさとを思いまた新発田に戻ってきたいと思う子ども達が増えるまちにしたい、としました。育てる子ども像としては、「新発田を誇りに思い、愛する気持ちをもって夢や希望に向かって学び続ける子ども」としました。この点を育てていく「しばたの心継承プロジェクト」にしたいと考えました。そこで、学校教育の役割としての「プロジェクト1」として、キャリア教育の視点から総合的な学習の時間等で、人とのふれあいや体験的な活動の充実を図り、ふるさとしばたへの誇りと想いを深めていきます。社会教育の役割としての「プロジェクト2」として、興味関心に基づいて、歴史、文化、産業などの本物の良さに触れる機会や場を設定し、学校教育での学びを更に深めて広げていきたいと考えています。私達が考えたイメージを図にすると画面のようになります。次に視点です。「プロジェクト1」と「プロジェクト2」を3つの取組の視点から進めます。視点1としましては「まち全てが教材、人とかがわり合いながら体験的に学ぶ」、つまり良さの発見と人との出会いを大切にすることです。次に視点2は見える化です。せっかく実施しているのだから、これをどんどん保護者にも地域住民へも伝えたい、そして見える化は取り組んでいる子ども達にも価値のあることだという意識づけを行うことに繋がります。視点3は、現在取り組んでいることを、ふるさとに対する思いを深めるという視点から意味づけを行って、子どもが意識し自覚するということ。これをイメージ化すると画面のようになります。学校で地域の特色を活かした学習をしよう、地域のことを教えてくれる人はいないかとなった時に、地域に詳しい方に地域コーディネーターとさせていただき、地域の方と学校を繋いでもらい、子ども達がふれあい体験する。その中で「新発田の人は頑張っている、素晴らしい、自分も何かしたい」という子ども達の思いを高めていきたい。このように地域への思いを高めた子ども達は、次に学んだことを多くの人に伝えよう、発表しよう、地域のためにできることをしようとするのではないのでしょうか。もっと知りたいと思う子どもには、中央公民館、中央図書館、歴史図書館、青少年健全育成センター、文化行政課などが取り組む「プロジェクト2」でさらに理解を深め広げていきたいと考えます。画面の中央にある「〇〇中学校の日」というのは、のぼり旗を活動時に掲げ地域の方にもアピールするとともに、子ども達自身にも活動をしているという意識を持たせたいということでもあります。学校教育と社会教育の連携により、地域と人を繋げ、ふるさと新発田を愛する心を育てていきたいと考えています。そして、市歌「虹の橋をわたって」を歌っていくことで、世代の心が繋がっていけば、この歌を聞いた時に私達は新発田で共に育ってきた仲間だという意識がさらに深まるのではないかと思います。このようなイメージで、目指すまちの姿、目指す子ども像に迫りたいと思っております。

これを具体的な取組として言葉で表しますと、「プロジェクト1」の1つ目は「プロジェクト単元」と位置付けていきたい、2つ目は「〇〇学校の日」を新設してのぼり旗などを作って見える化していきたい、3つ目は地域支援コーディネーターを全学校に配置し発信の場を設定していきたい、4つ目は「食のまち新発田を知ろう」という出前講座を更に進めていきたい、5つ目は市歌「虹の橋をわたって」に親しむ機会を作っていきたいということでもあります。

「プロジェクト2」としましては、地域住民、関係団体、ボランティア等と連携し、新発田市の自然、歴史、伝統、文化、産業に関わる内容の体験・参加型講座を開設すること、そして学校への

人材派遣や紹介、教材の提供を行うということでもあります。お手元のA3資料の2枚目に具体的な取組について記載しておりますのでご覧ください。また、これらとは別に、しばた未来創造プロジェクトと連携した取組も進められるのではないかと考えています。

簡単ではありますが、このような形で「しばたの心継承プロジェクト」を進めていきたいと考えました。皆様からご意見をいただき、より良い事業としていきたいのでよろしく願いいたします。

○二階堂市長

ただいま、小坂井教育センター長から説明がありました。ただいまの説明内容について、皆様からご意見、ご発言をお願いしたいと思います。はじめに工藤教育長からお願いします。

○工藤教育長

子どもは未来の宝物と言われております。そして、今、私達の目の前にいる子ども達は将来の新発田市民であり、新発田の保護者になります。そういう意味で教育はとても重要であると認識しております。教員は、あの先生に習って良かったとそう言ってもらえることが一番の喜びであります。そして、これを目指す教員はたくさんおります。やはり、子ども達の心に宿る、そういう教育者といえますか教師であってほしいと思いますし、今の若い先生方にしても、子ども達の心に自分が宿っていると感じた時に誇りを持って更に仕事をしたいと思う人は多くいます。そして教育というのは、子ども達の心に火をつけ、やる気を起こさせる、そういう営みであると私は考えております。先生が側でずっと手取り足取り教えるのではなく、自分に自信をもって自ら進んでいくことができるようにすることがとても大切な教育の仕事ではないかと感じています。そのためには、二階堂市長がよく「市民の目先に立った行政をなささい」という言葉をおっしゃいますが、まさに教育もそうだと思います。子どもの目線に立った教育活動を行うことが大事だと感じています。どの子にもこの世に生まれてきて良かったと思ってもらえることは、教師だけでなく、全ての大人の願いであると思いますし不易なものであります。自分に自信を持っている子、その自信から目標をもって勉強やスポーツなどいろいろなことに挑戦する、そういう子どもが私達が目指し育てていく子ども像だと思います。今は世の中の動きが全て中央へと集まっています。全てにおいて中心がいい、都会がいい、具体的な地名を挙げれば、東京がいい、大阪がいい、福岡がいい、これが今の流れではないかと思えます。そうではなくて、地元、故郷、ふるさとに、また自然や地域やそこに暮らしている人、生活している人達に子ども達が誇りを持ち、そこに生活している自分に自信を持つことが非常に大事だと教育委員会では考えました。まさにこれは、全ての教育関係者が言っている自尊心を育てなさい、自己肯定感を持たせることがこれからの教育の最重要課題であるということであり、これは文科省も県教委も10年前から言い始めています。自分を大事にできる心、これを育てることが最終的には自分に自信をもって育てていく子どもとなると考えています。最近出た2019年度版の「子ども若者白書」の中でも、日本の子ども達は地域にいけばいくほど、地方にいけばいくほど自己肯定感、自尊心が低くなるというアンケート結果が出ています。これは12か国全てを調べた結果で、自己肯定感、自尊心が低いということは何十年來言われ続けていることであり、この向上には何が必要かと教師も政治家もずっと考えてきました。日本人は誰かの役に立っている、自分は生きる価値がある人間だと感じた時に自己肯定感が高くなります。これは外国の自分は自分、人は人と分ける考え方と違い日本人特有の考え方だそうです。そう考えると、自己有用感を高めることが一番大切なのではないかと私は思います。つまり、自分が役立っている存在だと感じることであり、自己有用感の育成には、これまでのただ調べる学習だけではなく、先程、小坂井教育センター長から説明のありましたとおりボランティア活動や体験学習、キャリア教育など、主体的で対話的な深い学びができる地域の課題発見、解決学習である社会参加型学習がとても大事に

なります。つまり、学校内で終わるのではなく、学校の外に出て、多くの地域の方や市民の皆さんと交わり関わることにより、子ども達が地域や市民の皆さんから称賛され、評価されることで、小学校、中学校あわせて7千人を超える新発田市の児童生徒が、自分に誇りをもって生きていくことに繋がるのではないかと感じています。その意味では、子ども達が自分は誰かのために役立っている、地域の方や多くの方に評価してもらった、自分は生きる価値があると思い、またそのことを誇りに思い勉強やスポーツなどを頑張り、更には自殺などを考えない子どもに育ててほしいと思っております。このプロジェクトに取り組むにあたり、このような考えから教育委員会で検討してまいりました。是非、皆様からご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○二階堂市長

ありがとうございます。今の工藤教育長の発言も含めて、皆様からご意見をお願いしたいと思っております。はい、小池委員お願いします。

○小池教育委員

ご説明いただきありがとうございます。最初に教育委員会で「しばたの心継承プロジェクト」のお話をお聞きした時に、新発田の未来に触れるというか、もっと強い言い方をすれば新発田の未来を左右する非常に重要な計画が始まるのだなと感じました。同時に、そうであればあるほど、各学校が真剣に切実にこれを捉えて、市のテーマに向かっていく学校現場を作ることが教育委員会としての役割になるのだと思いました。

A3の資料を何回も読ませていただきました。全体を通して子ども達に人生の先輩としての人、生業を追求してきた大人達に出会わせるための、出会わせることで子ども達が学ぶためのプロジェクトなのだと思えました。「1 はじめに」の中で、「しばたの心継承プロジェクト」の定義といますか、具体的に学校の行動としてどのようなことをしていけばよいかの方が更によく伝わるような記述が必要になってくるのではないかと感じました。「はじめに」の2つ目の段落の中で「しばたの心とは人である」として、まさに「しばたの心」の定義が記載されているのですが、「人に敬意を払い、人を大事にする心」ということは、互いに尊重し合い、そこから学ぶのだということをもう少し強調し、理念というかお互いが尊重し合って、学び合って、人から学ぶことにこそ、子どもは未来、新発田への誇りを持つことができるというアピールが必要ではないでしょうか。それから「2 新発田市の地域に関する学習の現状と課題」の(3)課題の最後で、「地域に対する実感を伴った学びに改善していくことが大切」として、大切という言葉で締めつけていますが、もう少し強い表現、例えば不可欠や急務など切迫感のある言葉の方がより伝わるのではないかと感じました。キャッチフレーズは韻を踏んでいるようで面白いなと思えました。その下の目指すまちの姿の中で、世代を超えて互いを大切にするという素晴らしい言葉がありますが、この大切とキャッチフレーズの「ひとが大事」の区別というか、何かの表現を「大切」に託したのであれば言葉の追加や置き換えがあった方が目指したいものが明確になるのではないかと思います。同様に学校教育の役割「プロジェクト1」の中で「ふれあいや体験的な活動の充実を図って」とありますが、人からの学びを充実させることで「ふるさとしばた」への誇りと想いを深めるという学校現場で行われていることに対し、もっとこのようなイメージで進めていってはどうかということ具体的に記載しても良いのではないかと思います。社会教育の役割「プロジェクト2」については、このプロジェクトの実務は学校教育課に位置づいていると思いますが、発信地は教育委員会であっても、周りの課と連携しながら機会や場の設定のために、地域で子どもを教育できるような人材育成の充実については教育委員会でもなくても取り組めるのではないかなと感じています。市の組織を詳しく理解しているわけではないので的外れかもしれませんが、そういう人材を育てる行政としての営みが必要

なのではないかなと感じました。「4 取組にあたっての視点」についても、視点1の「新発田のまち全てが教材」となっていますが、あえて「まち」を入れた理由があるのであれば、それを強調なり説明した方がよいのではないかなと思いました。次のページの「6 具体的な取組」については、学校現場はこのプロジェクトを進めるためのいろいろなことが見えてくるかなと思いました。その中で、まず(1)のプロジェクト単元の設定および推進についてですが、これまでの教育委員会の会議の中でも今も説明があったとおり、現行の学校は総合的な学習の時間を通じて、地域に根差した学習活動を行っており、内容も非常に充実していて成果も挙げていると思います。そうだとしたら(1)の中にある学習の意味づけを行いという文言を、冒頭に出して、現行の学習をこのプロジェクトの視点で見直しを行い、人と関わる学習の充実、発展を図るということを中心に置いて、総合的な学習の時間で取組んでいる単元の、に繋げると、現行でやっていることでいいんだなと伝わり、やっていることをもっと子ども達に意味づけして戻すようにすればいいことなのだと学校も自信が持てるのではないかなと思いました。学校の側としては(3)は非常に大きいですし、強力な学校支援になると思うので、これを(1)か(2)に位置付けてもよいのではないかなと思いました。「〇〇学校の日」については特定の日を定めるのではないと分かったので、「〇〇学校活動の日」として学校によっては年に何回でもいいし、ある学校については特色ある日を決められていればその日にすればよいと思います。見える化の方策としてはよいのではないかなと思いました。(5)の市歌ですが、聞くところによると全市の取組みとして小学校の音楽交歓会で歌う場がありますが、中学校でそういうことが模索できるのかということも学校を指導する一つの視点となるのかなと思いました。先程も少し触れました「プロジェクト2」についてですが、今や学校現場での課題解決は学校内だけでは済まない時代であり、学校内だけで対処できることではなくなっているのと同様に、人の育成という視点で、学校教育課や教育委員会の中だけでの課題解決とせずに、市民を育てるという発想で、行政の中に市民参画と協働という言葉があると思うので、地域で震源地になれる人材を育成していくような取組がこのプロジェクトとリンクするような形で、教育委員会以外の部署でも取り組んでもらえればよいなと強く思いました。最後です。学校には食とみどりの新発田っ子プランという事業があり、総合的な学習の時間で食に関わることを学ぶのですが、学校内で重要な財源となっていました。先程の教育大綱の中にもあるように食育も力を入れている分野ではありますが、「しばたの心継承プロジェクト」が新発田の特色ある教育と位置付けられるのであれば、食とみどりの新発田っ子プランの名前を変えて、できることであればその財源を拡大して、例えば「しばたの心継承プロジェクト」プランや事業として学校に予算措置することができれば、学校の意識も更に高まるのではないかなと思いました。以上です。

○二階堂市長

ただいま小池委員からご指摘をいただきました。小池委員のご発言に対し、追加の説明や見直す点をお示しし、たたき台としていくことがこうした会議では大切なことです。プロジェクトは良いものであっても、教育委員会が覚悟をもってやれるかどうか、覚悟が試されていると思っています。ただ今頂いたご意見について、佐藤教育次長、お願いします。

○佐藤教育次長

はい。今ほどのようなご意見にございました言葉の選択、例えば「大切」を「必須」や「急務」とすることにつきましてはご指摘のとおりと感じておりますので、持ち帰って修正したいと考えております。他にもご指摘いただいた言葉の表現についても検討させていただきたいと思っております。

また、この計画を作成するにあたりまして、教育長を筆頭に教育委員会の全課長でプロジェクトチームを作り複数回にわたり検討会議を開催してまいりました。その中でも「1 はじめに」の部

分につきましては何度も何度も見直しを行い、私どもが皆様に一番お伝えしたい部分でもございます。当然「しばたの心」とは何かという疑問が出るだろうということで、「しばたの心」とは「人」である、「しばたの人」なのだということを伝える内容としました。時代が急激に変わる中でも、変えてはいけないものを子ども達に引き継いでいきたいという思いを入れたものが「はじめに」の部分であります。市長からも覚悟をもって取り組みなさいと言われておりますが、教育委員会の事務方が一生懸命作成した計画であり、しっかりとやるという覚悟をここに入れ込みたい、強い思いを入れ込みたいということで作成した部分であります。ただ、小池委員からの今ほどのご意見は、学校現場からみた時に、学校で実際に取り組む先生方にずっと入っていくのかという点で、先生方にとって少し分かりにくいということであれば、この部分は私共の強い気持ちも入っているので、言葉を変えろということについてはもう一度相談したいとは思いますが、学校現場向きの「はじめに」を学校用に作り直すということも方法としてあるのではないかと考えております。対象にあわせて分かりやすい表現で説明をしていくことを検討したいと思っております。次にキャッチフレーズであります。「ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育」としてありますが、このプロジェクトを実行して、浸透して、定着させるには、やはり誰にでもずっと入ってくるキャッチフレーズが必要だろうということで、今回これを掲げさせていただきました。やはり「人」、新発田は人が第一で、大事ということで、語呂もいいのでこのキャッチフレーズといたしました。この部分は、私共といたしましてはずっと伝えていきたいという強い思いもありますので、ここはこのままとさせていただきたいと思っております。ただ、実際にプロジェクトを進めていくうえで説明が足りないというところについては、しっかりと説明をしていきたいと考えております。次に「4 取組にあたっての視点」であります。新発田の「まち」全てが教材ということで、「まち」がなくてもよいのでは、入れるならば強調した理由を説明してはどうかというご指摘をいただきましたが、私共としてはこだわりをもって「まち」を入れておまして、これは単に新発田全体というのではなく、自分が住んでいる新発田のこの「まち」ということで「まち」という言葉をあえて入れたいということあります。次に「6 具体的な取組」について順番のお話がありました。(1)となっている項目に一番力を入れているということではなく、私共としましては、学校教育が中心となる「プロジェクト1」は(1)から(5)まで全てを来年度からスタートさせたいという思いで作っており、並行して取り組んでいくものであります。また「学校活動の日」ではなく「学校の日」とした点につきましては、活動自体ではなく、活動している日は「学校の日」ですと大いにPRしたいという考えから「学校の日」とし、活動する際に設置するのぼり旗の予算要求もしていきたいと考えております。こうすることで、児童生徒にも活動をしているという意識づけができ、そして地域や保護者の方々にも「学校の日」は学校を応援して下さる日として認識していただければと考え、「学校の日」といたしました。市歌についてですが、やはり大人になっても、何を忘れてもこの歌だけは記憶に残っていくように子ども達を育成していきたいと思っております。一方で、現場としては、なかなか中学校ではこうした時間を確保することは難しい状況だと聞いております。来年度からは、まずは全小学校に市歌を歌えるようになる取組を実施していきたいと考えております。最後に「プロジェクト2」についてであります。今は教育委員会とみらい創造課と一緒に取り組んでいける部分があるのですが、初めてこうした大々的な取組をしていくわけですので、最初から広げすぎて上手く進まないということにならないよう、まずは来年度、教育委員会でしっかりと進めさせていただきたいと思っております。この事業は毎年検証を行うこととしておりますので、今後は教育委員会だけでは収まらず、歴史・文化を学べば商業や観光などの分野にも広がっていくと思えますし、地域であれば市民まちづくり支援課も一緒に進めていくことも必要ではないかという意見は検討段階でも出ておりました。このプロジェクトを進めていけば、当然、他の分野にも広がっていくだろうと思っておりますので、再来年、その次となれば一歩二歩と進んでいくことと思っておりますが、まず来年

度はこの形でスタートさせ、定着を図っていきたいと考えております。まだまだ説明が不足している部分もございますが、考え方としましてはこのように作成させていただきました。

○二階堂市長

他にご意見ございますか。先程の小池委員のご意見を踏まえてでも結構であります。桑原委員、どうぞ。

○桑原教育委員

小池委員もこだわられた「はじめに」の部分「しばたの心」についてですが、二階堂市長が先日の敬和学園大学で行った講演で語られておられました。新発田藩は大火に見舞われ洪水に苦しめられた歴史があり、その中から人を大切にするという「しばたの心」が生まれたと理解しています。一方で「敬意を払い、人を大事にする心」は普遍的なものであり、「世界の心」「地球の心」とも表現できるものです。つまり、しばたの心は歴史から生まれたものであり、同時に普遍的な理念でもあるということです。「基本方針」にあるキャッチフレーズ「ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育」は、この普遍的な理念が反映しているわけです。つまり、人権教育を重視するということになります。そして、「ひとが第一、ひとが大事、新発田の教育」をどのように進めていくかという目標がその下に記載されています。しかしながら、記載されていることを見ますと、「目指すまちの姿」には2つの視点が入っています。地元で仕事に就くという意味だと思いますが、まちを支えていく人材を育てたいという点と新発田という自分が生まれて育った場所を愛するという気持ちをどう育てていくかという点の2つが入っています。自分が生まれ育ったまちを愛しながら仕事につくということが最も理想だと思いますが、必ずしもこの両者が揃うかどうかは分かりません。後で説明があったのは新発田の人材育成のためにはキャリア教育が大切であるということでした。企業に行ったり、福祉施設に行ったりして体験学習をするということです。新発田の特徴をあらゆる企業もあるわけですから、そうした企業で学習すれば、まちを愛することに繋がるかもしれませんが、新発田に特化していない企業もたくさんあります。その企業にインターンシップへ行ったとしても、こうした仕事も新発田にもあることを知ることはできますが、それを通して新発田というまちを愛することができるかどうかは、また別な問題ではないかと思いました。したがって、新発田を愛する、自然に新発田のまちを愛するようになるにはどうしたらいいのかという別の枠組みが必要になります。新発田を愛するということをどういう形で学校教育の中で進めるのかと考えた場合、学校教育の中でやる場合と、地域の中で取り組んでいただくものがあると思います。後者の例では、が子どもの頃は、学校は関わりなく町内会に子ども会のような組織があり、お祭りに参加したりいろいろな場所に連れて行って行っていました。この2つのほかに、地域の組織と学校が連携して行うという3つくらいのパターンがあると思います。何を学校教育の中で、何を地域の組織の中で、何を連携としてやっていくのかも考えていかなければならないと思います。具体的に新発田を愛するということで、現在行っている活動や学習の紹介がありましたけれども、既に良い取組を行っていると思います。例えばお米を作る体験や新発田川に入ってみる体験、お城の歴史を理解したうえでの清掃活動などです。梅を育てるのは、地域を理解すると同時にインターンシップにもつながる学習だと思います。伝統的歴史的なお祭りに参加する太鼓などもそうです。しかし一方で、佐々木中学校の地域と関わるミッション解決はどのような内容を行ったかを見なければなりません。大人の前で発表するということはテクニカルな学習であって、必ずしも地域を理解する学習とは一致しないと思います。猿橋中学校の花壇づくりも、まちを愛するから、まちを美しくしたい、だから花壇を作りたいという循環であれば分かりますが、学校で花壇を作るだけで地域への理解や愛情を呼び覚ませるとは思いません。そもそも、まちを愛する、自分が生まれたまちを愛するということは

どういふことなのでしょう。自分が選択する余地なく生まれる場所、そこで育っていくだけで、その土地に自分は所属しているということが無意識のうちに自分の中に根付いていきます。成長する中で、やっぱりこのまちはいい所だという認識が重ねられるかどうかだと思います。実際に資料にも記載されていますが、自然や文化、歴史に触れるということですが、小学校の頃にそういう体験を積み重ねる必要があると思います。アンケートの中にもありましたが、中学生になると勉強が忙しくなってしまいます。勉強の中には地域を理解する学びが入らなければならないと思いますが、残念ながら日本の学校教育では中学校は高校進学のため、高校は大学進学のためという受験競争の中で学習が行われていますので、その中では地域を理解する視点はどんどんなくなっています。これは日本全体の現象だと思います。地域独自のものがどんどん消滅し多様性が狭められているという状況であると思います。ですので、小学校の時期を大切にしなければならないのです。今は学校が忙しく、余裕の時間は見つけられないかもしれませんが、地元の地理を勉強したならば実際にそこに行って見る、身近な山に登ってみるという体験が重要なのではないかと思います。歴史も同様です。歴史も座学だけでなく、ゆかりの場所に行き実際に見ることが大切になります。こうした座学と校外での体験型の学習の連携がどれくらいできるのか、バラバラに行っては効果がありませんから、どれくらい連携して展開できるかということになると思います。教科書の中に載っていないことも考えていかなければならないわけですから、小池委員も先程おっしゃっていましたが、コーディネーターが専門的にそれぞれの地域で、その文化や歴史、地理的な特徴に根差した体験を取り入れていけると良いと思います。学習の中で自然に、自分が今いる土地を理解することが学校教育また地域での教育の中に入れることが理想ではないかと思っています。

○二階堂市長

ありがとうございます。重要なことはいただいたご意見をどう反映できるかということであり、今教育委員会でこのプロジェクトに携わっている職員は、こうしたご意見を伺い取り入れて事業を進めることができるけれども、来年度以降、人事異動でメンバーが変わったら、今いただいたご意見が活かされないということのないよう、しっかりと明記するならば、他の方法で活かすなら活かすというように進めてください。

○二階堂市長

他にご意見ありますでしょうか。
笠原委員、どうぞ。

○笠原教育委員

今まさに、自分の子どもが総合学習で新発田のことを学び、教育をうけて成長しているところです。各小学校が地域の特色に合わせた総合学習、地域の学びをそれぞれ取り組んでいると思います。我が家の子どもは総合学習の成果なのか、新発田を出たくないと言ってくれています。親としては外の世界を経験することもまた大切だと思いますが、新発田が大好きと言っています。小学校では地域や新発田についてとても勉強していて、新発田はいいなという気持ちが小学校6年生くらいまでは盛り上がるのですが、中学校に入るとどうしても受験や学力に移行してしまうので、傍から見ていると盛り上がった気持ちがガクンと下がってしまうようです。保護者から見ると、中学に入って違う分野の割合が高くなることは理解できるのですが、小学校でここまで積み上げたものに、中学校に入っても何かまたプラスできるような連携した何かがこのプロジェクトの中で実行できたらとても良いのではないかと期待しています。中学でも積み上げることができれば、高校やその先の進路に進んでも、中学校時代のことは心にずっと残ると思います。中学生はとても多感な時期で

ありますが、いろいろなことを記憶している時期でもありますので、小学校で積み上げたものをもっと中学校で積み上げられる何かがあればいいなと保護者として感じています。新発田といっても海から山から里から街からととても広く、それぞれの地域にあった授業を行っています、この小学校は何を学習しているのかな、この中学校はどんなことに取り組んでいるのかなということが見えていないと思います。競争とまでは言いませんが、この学校はこんなことをしている、楽しそうだなという気持ちや、もっとこうしようという気持ちを高めるためにも発表会などの見える化も大切なのかなと感じています。海の方の学校はこういうことをしているのかと山の方の学校が知ることができて、海に近いところも面白いなと感じる交流がこのプロジェクトを通してもっと広がればいいなと思いました。あとは、地域の良いところだけではなく、喫緊に考えなければならない課題もそれぞれの地域にはあると思いますので、あまり見せたくない部分もありますが、子ども達にも少しだけでもこうした点について考えさせることも大切だと思います。自分達の地域はこんなことになっているのか、では自分達は何ができるのかということを考えさせることも郷土愛ではないですが、地域を大切に作る心、人を大切に作る心に繋がるのではと思っています。私はしばた未来創造プロジェクトにも参加しているのですが、そちらでも人口減少という部分でいろいろな取組をしている中で、3年ほど前に出前授業のようなことを行いました。小学校を訪問して6年生の単元授業で意見文を書くという授業で、テーマは未来の新発田がどうなってほしいかという内容でした。その中でみらい創造プロジェクトから今の新発田の現状はこうです、でもこうした対策を行っていますという内容を話してほしいという依頼がありました。この話を聞いて子ども達が書いた意見文を読ませていただきましたが、子どもは自分の視点から新発田はこうなんだときちんと理解し、自分はこう思うという意見がたくさん挙がりとても良かったです。単元の授業で、教科書の中の授業を地域と結びつけることができるのだなと私自身もとても勉強になりました。子ども達を育てる地域といいますと、どちらかという祖父母世代といいますか、年齢が上の世代の方から教わることが多いと思いますが、それももちろん大事なことでありますが、それプラス身近な高校生や大学生などのお兄さん、お姉さんと関わるということもとても大事な要素ではないかなと考えています。自分はこういうお兄さんやお姉さんになりたいな、新発田に住んでいる身近な人を素敵だなと感じ、理想が芽生えてくると「しばたの心」として育っていくのではないかと考えていました。この「しばたの心継承プロジェクト」がずっと継続していけばいいなと思います。

○二階堂市長

ありがとうございました。

萩野課長、どうぞ。

○萩野学校教育課長

桑原委員と笠原委員のご意見を伺いまして、我々の中では「しばたの心継承プロジェクト」は総合学習で取組むイメージだったのですが、教科の中でもいろいろな取組ができるかもしれないと思いました。教育委員会としてこの計画を立てておりますが、細かいところは学校長が市の取組としてのこの計画を理解し、自分の学校でこういうことをしたいというイメージを膨らませ、各学校で地域の特徴を活かした取組となっていかなければならないと考えております。この事業が、教育委員会からの押し付けのような形になっては良くないので、校長が自校の教職員と対話をしながらこの理念に基づいて何に取り組もうかをしっかり考えてもらうようにすることが、子ども達の中に「しばたの心」が育っていくことに繋がると考えています。こうしたことから、あまりガチガチに固まった計画では、学校の自由度がなくなってしまう、学校の工夫がなくなってしまう。やはり校長のリーダーシップのもとで、子ども達をどう育てていくか現場で考えることが大切であり、

それを支援することが我々教育委員会の役割であると考えております。また、中学校ではなかなか発展しさらに積み上げる場がないというご意見がありましたが、中学校では小学校で学んだことに対し、さらに上のもっと広い視野での学習が必要になると考えております。例えば先程具体的にあげていた佐々木中学校でいえば、あれは発表やプレゼンの練習ではありません。新発田のまちの企業にこういう課題があります、これを解決するためにあなた達は どうしますかというミッション解決型の学習であり、佐々木地区を発展させるためには何に取り組まなければいけないかということグループで考えることをテーマとしています。例えば、豊浦地区であれば月岡温泉の活性化のためにいろいろな店ができていますが、さらに発展させるためには、外から人を呼び込むためにはという視点で中学校では取り組む必要があるのではないかと考えております。新発田のまちを教材として新発田の人からたくさんのことを学びながら、自分なりに何をどう考えていくかという自分の課題を解決できる子ども達を育てていくために、こうした経験をたくさんさせていきたいと考えております。

○二階堂市長

桑原委員、どうぞ。

○桑原教育委員

中学校の試みとしては良いと思います。地域が抱えている課題についても、日常生活で漠然と感じていても、一緒に考える場を設定しないと課題解決にはつながりません。実際に、すぐに解決できるかどうかは別として、自分達の考えを出し合うというのは良い学習の方法だと思います。

○二階堂市長

学校長にある程度任せるということも重要なことですが、温度差がでるのではないかと懸念もまたあります。そのあたりの調整はどのように考えているのか。

○萩野学校教育課長

校長会がありますので、校長会の中で校長同士の連携や私の学校はこうしているという情報交換を行うことができます。また、実際に計画を立てるのは総合担当の主任なので、現場の教員同士が情報交換をしながらもお互いに刺激し合う場も必要だと考えていますし、そのための発表の場を設けることも考えています。発表するためには当然しっかりと取り組むことが求められることとなります。もちろん、発表自体が目的ではありませんが、一つの手段、意識づけになるのではと考えています。

○二階堂市長

関川教育長職務代理人、お願いします。

○関川教育長職務代理人

「取組にあたっての視点」の視点1から3までに立ってしっかりと取り組むことが重要だと考えます。特に見える化をどう進めていくかがポイントとなると思います。見える化もいろいろな方法があります。そして、学校長がそこまでやる必要があるのかと疑問を感じているようではだめです。一般教養をはねつけるくらいの学校をつくっていかねばならない取組だと思います。校長が上から、教育委員会が言っているからやりますというような学校では、その時点で期待できません。先程、教育長が子どもの自己肯定感が低い、自己有用感を持たせないといけなとおっしゃっていま

したが、これは以前からずっと続いている課題であります。どうしたらいいのかと言えば、まずは教員が変わらなければならない、校長をはじめ教員全員が変わって、子ども達を完全に引き込んで、子ども達にやる気が芽生え、実際に行動してみて、成功し、自信を持ち、自分はやれたという実感を持たせることが大事であり、これにより自己肯定感や自己有用感が高まっていくわけです。この視点を大事にしながら、子ども達の自己実現をさせていくうえで、我々は何を大事にするべきなのかをよく議論する必要があると思います。視点3の意味づけとはそういうことだと思います。議論をしっかりとせずに、受け身的な構えで子どもと向き合っても上手くいくはずがないのです。先生方がまず新発田を好きになってもらう必要があります。自分は市外の出身だから新発田のことは知らない、関係ないでは上手くいきません。最近の教員はそういう意味では相当前向きです。ですので、今がこうした取組のチャンスであると思っています。この3つの視点について、しっかりと現場の教師と話をしながら、いろいろな人がこのプロジェクトについて意見を言ってほしいと思いますし、その中で育っていくのではないかなと期待しています。そして、何とかうまく行ってほしいと心から思っております。

○二階堂市長

ありがとうございました。
佐藤教育次長、どうぞ。

○佐藤教育次長

先程、笠原委員から実態にあわせてお話をしていただきましたが、まさに子ども達が新発田を好きになる、関川委員からも教師も新発田を好きになるという話がありましたが、これを通して好きになってもらうということがまずは大事なのだと思っております。この事業を進めるにあたって、楽しくやらなければ定着しないと思っておりますので、校長先生はじめ先生方ときちんと話し合っていきたいと考えております。

○二階堂市長

それでは、いただきましたご意見を反映し、見直す部分については修正をさせていただきます。本日、各委員の皆様からご意見をいただきましたのできちんと整理をして、議事録も整えて、これからもこの議論が生きていくように進めなさい。この議論はここで終わりではなく、こういう議論を経てきたということを引き継ぐようにしなさい。

では、他にご意見はありませんか。なければ以上で協議を終了し、進行を事務局へ返します。

4 閉会

○山口みらい創造課長

ただいま活発な、そして総合計画を策定しておりますみらい創造課にとりましても皆様のご意見はまさにこれから作り上げていく際に、分かりやすさ、理解のしやすさというものが実行に繋がっていくという貴重なサジェスションをいただいたと思っております。しばたの心継承プロジェクトのみならず、総合計画におきましても私共もそのような心構えをもって進めていかなければならないと感じております。

教育大綱につきましては、現在検討の段階でございますので、2月4日に次回の総合教育会議を開催させていただき、案をお示ししたいと考えております。その間に皆様のご意見を伺いたいということになりましたら、その際はご協力を頂ければと思っております。

以上をもちまして、令和元年度第1回新発田市総合教育会議を閉会いたします。本日は大変ありがとうございました。